

「世の中」と「身の回り」の経済状況についての意識調査

経済気分 2010

～「世の中の景気」「自分自身の生活」、ともに来年度は好転への期待感～

博報堂生活総合研究所は「世の中」と「身の回り」の経済状況についての意識調査（2009年11月末）を実施し、「経済気分 2010」としてまとめましたのでご紹介いたします。

2009年の経済状況についての評価を見ると、「世の中の景気」について「良かった」と答えた人は昨年比 1.2 ポイント増の 4.0%、「悪かった」と答えた人は 0.2 ポイント減の 84.5%、「どちらともいえない」は 0.2%増の 10.4%で、昨年とほとんど変わらず、景気実感は 2 年連続で厳しい評価となりました。一方、「自分自身の生活（月収、ボーナス、こづかいなど）」については「良かった」と答えた人は昨年比 3.3 ポイント減の 13.1%、「悪かった」と答えた人は 10.3 ポイント増で 53.4%、「どちらともいえない」が 5.9 ポイント減の 32.3%で、昨年と比べさらに悪化、「悪かった」という人が「良かった」という人の 4 倍に達しており、比較可能な 2004 年以降最悪の評価となりました。昨年の金融危機の影響で今年前半の経済指標は軒並み数値が落ち込みました。後半は生産や輸出の回復、政府の経済対策などで景気はやや持ち直してきたものの企業業績は依然として厳しい状況が続いています。雇用や所得に対する不安は解消されず個人の暮らしは改善されていません。当研究所が発表している消費意欲指数も年間平均値が 50.8 点と過去最低を記録しました。2009 年は昨年同様「世の中の景気」も「自分自身の生活」も非常に厳しい 1 年だったといえそうです。

来年への展望（2010年への展望）では、「来年の世の中の景気」について「良くなる」と答えた人は昨年（2009 年への展望）比 3.7 ポイント増の 20.1%、「悪くなる」と答えた人は 17.1 ポイント減の 42.1%、「今年と変わらない」は 14.2 ポイント増の 36.6%でした。また、「来年の自分自身の生活」については「良くなる」と答えた人は昨年比 6.7 ポイント増の 19.2%、「悪くなる」と答えた人は 6.2 ポイント減の 36.3%、「今年と変わらない」と答えた人は 0.2 ポイント増の 43.3%でした。「世の中の景気」「自分自身の生活」に対する展望はいずれも昨年末に比べて好転しています。景気の先行きへの不透明感は払拭されず、厳しい経済環境が続くと思われませんが、生活者は我慢の 2 年間を経て、来年は少し景気が回復するのではないかと、またそれに伴って自分自身の生活も良くなってほしいとの期待感も出ているようです。

◎調査結果の詳細は次ページをご覧ください。

調査結果詳細

注. カッコ内の数値は昨年と同調査の結果、矢印は昨年と比較した今年の概況を示します。

また、合計が100%になっておりませんが、これは調査データに一部「無回答」が含まれるためです。

(1) 今年の「世の中の景気」はどうだったと思いますか。

良かった	4.0%	↑	(2.8%)
悪かった	84.5%	↓	(84.7%)
どちらともいえない	10.4%	↑	(10.2%)

(2) 今年の「あなた自身の生活（月々の収入、ボーナス、こづかいなど）」はどうだったと思いますか。

良かった	13.1%	↓	(16.4%)
悪かった	53.4%	↑	(43.1%)
どちらともいえない	32.3%	↓	(38.2%)

(3) 今年と比べて来年の「世の中の景気」はどうなると思いますか。

良くなる	20.1%	↑	(16.4%)
悪くなる	42.1%	↓	(59.2%)
今年と変わらない	36.6%	↑	(22.4%)

(4) 今年と比べて来年の「あなた自身の生活（月々の収入、ボーナス、こづかいなど）」はどうなると思いますか。

良くなる	19.2%	↑	(12.5%)
悪くなる	36.3%	↓	(42.5%)
今年と変わらない	43.3%	↑	(43.1%)

調査概要

- 調査対象者 首都圏の18歳～75歳までの男女328人
- 調査方法 郵送法
- 調査時期 2009年11月下旬